

親愛なる港区役所関係者各位、

港区民、参加者、本イベント企画運営関係者、ご来賓の皆様、

本日、港区平和都市宣言 30 周年に際しまして、基調講演の機会をいただきましたことは誠に光栄です。アフガニスタン・イスラム共和国政府、駐日アフガニスタン大使館を代表いたしまして、まず、今次行事に心からのお祝いを申し上げます。また、一連の行事が成功裏に行われますよう、お祈り申し上げます。

2008 年に現在の大使館建物が港区にできて以来駐在しておりますが、港区および警視庁のご理解、ご協力を得てきました。アフガニスタン大使館のみならず、日本有数の在外公館が駐在する地域として、多くの諸外国公館におかれましても、それぞれの本国と日本の国家関係の維持発展という職務に集中できるのは、港区および警視庁のご協力があるのもです。地元地区の平和な環境がなければ、本来の業務を成し遂げるのは困難でありましょう。

さて、本年は 1985 年 8 月 15 日に港区が平和都市宣言をして 30 周年にあたります。30 年は人類の一世代と言い換えることができるでしょう。この 30 年で、いわゆる冷戦の終結や特に情報技術の革新的な発展が見られる等、国際環境でも多くの変革が見られました。世界史の中では、わずかな衝突はありましたが、世界的に非常に安寧な 30 年であったといえるでしょう。もしあなたが 30 歳以上であれば、過去 30 年の出来事でまず何が思い浮かびますか？もし 30 歳未満であれば、過去 30 年にはどのようなイメージをお持ちですか？アフガニスタンにとって、過去 30 年は残念ながら戦争の時代でした。しかし幸いにも戦争は終わり、平和な国家を再建するために進み始めています。

平和はなぜ大切なのでしょう？答えは簡単かもしれませんが、多くの人々にとって実現するのは困難でしょう。70 年前の戦火から見事に復興を成し遂げ、戦争の教訓を引き継ぎ、世界経済を牽引している今日の日本は世界によく知られ、羨望されています。アフガニスタンもかつては平和な国家でしたが、近年その平和と安定を揺らがせる出来事に見舞われました。そして現在、国際社会の寛容な支援の下アフガン人たちが払ってきた全ての努力が無駄にならないよう、平和で安定した国家を再建する「移行の十年」から「変革の十年」へと踏み出しました。

ここで我々の経験を元にアフガニスタンの歴史と文化の概略をご説明させていただきます。

6 カ国と国境を接するアフガニスタンは東西南北を通る通商ルートの接点として戦略的要衝である中央アジアの南に位置しています。アフガニスタン中央部のガズニ県で見つかったダシュテ・ナワル遺跡は一万年前に文明が栄えていたことを証明しています。青銅器時代には集落が誕生し、インダス地域、中央アジア、イラン、メソポタミアと交易を行っていました。地理的、政治的に理想的であったため、シルク・ロードの中心として栄えるのに時間はかかりませんでした。

アフガニスタンと日本の公式関係は 1907 年、サルダル・アユーブ・ハーン将軍一行が訪日したことに確認されています。初めてアフガニスタンを訪問した日本人は 1922 年の谷寿夫陸軍士官でした。1930 年に修好条約を締結し、公式関係が樹立しました。以来、アフガニスタンと日本が直接的に敵対したという記録はありません。80 年以上に渡り、両国は友好関係を維持してきたのです。1969 年にザヒール・シャー国王とホマイラ王妃両陛下が公式訪問を果たしました。返礼として、皇太子と皇太子妃、現在の天皇皇后両陛下が 1971 年にアフガニスタンを訪問しました。

近年のアフガニスタンの混迷は 1979 年 12 月、旧ソヴィエト連邦軍がアフガニスタン領土に侵攻したことに遡ります。旧ソ連軍の領土侵攻により、我々の前進的成果は暴力的回帰を始め、統治機構や自然・人口建造物を組織的に破壊し、多くの国民を避難民として国外に追いやりました。旧ソ連の侵攻した 10 年間で約 150 万人が殺害され、国民人口の四分の一が難民として国外に出たと推計されます。やがて旧ソ連が撤退し、法治力の空白地帯となったアフガニスタンでは、タリバンという抑圧的な政権が台頭しました。タリバン政権下では極端なイスラム法の解釈がなされ、適用が強制されました。例えば、男性は髭を伸ばさなければならない。女性は公共的、社会的活動に絶対参加してはいけない。女兒は学校に行ってはいけない。娯楽は許されない。この強制的、抑圧的政権のよく知られた愚行はバーミヤンの仏像を破壊したことでしょう。旧ソ連撤退後の無法状態は、権力の空白状態でこの集団が「世直し」の名の下に台頭するのを許しましたが、皮肉なことに、やり方が極端に厳しかったため、かつてアフガニスタンで享受された人々の自由が大きく損なわれました。

タリバンは自分たちの教義はイスラムの教えだ、と言いますが、違います。テロ攻撃や殺害、女性への不公平な扱い、教育や技術の軽視、人権侵害の正当化。どれも聖典コーランに正当化根拠が見つからないだけでなく、非難されるべきものとして言及されている行動です。正式名称が明らかにしているように我が国はイスラム共和国であり、国家はイスラム憲法を土台に確立されています。憲法の柱の一つは人権擁護と全国民の平等です。そうした政府を、タリバンは武力攻撃し、現行憲法を認めようとはしません。彼らは自分たちをイスラム教徒と呼んでいますが本当にそうでしょうか？ 一体、何の教義に基づいているのでしょうか？

その後、皆様ご存知かと思いますが、アメリカ合衆国での 9/11 テロ事件を追ってアフガニスタンへの攻撃が始まりました。アフガニスタンは再び軍隊の戦場となってしまったのです。1980 年代からの数十年に及ぶ基本的なインフラストラクチャー、統治機構の破壊と、非民主的政権の抑圧により、アフガニスタンは物理的にだけでなく精神的にも崩壊の危機に瀕しました。

これが 2002 年までのアフガニスタンの経験であり、平和のために戦っていたアフガン人指導者たちと国際社会はドイツで国際会議を催し、ボン合意に署名しました。以来、新生アフガニスタンは国際社会の援助諸国と手を取り合いながら国家再建に邁進してきました。この 13 年間で、アフガニスタンは多くの成果を達成しました。大統領選挙は国会議員選挙とともに 3 度行われ、アフガニスタン国軍に全領土の治安権限が委譲され国家警察と協働しています。1 万以上の学校で 1 千万人以上の学生が学んでいます。この内、40%は女子生徒ですが、2002 年当時は女子生徒はおらず、男子生徒だけで 100 万人しかいませんでした。国際協力機構の PEACE 事業は

500 人のアフガン人学生に日本の大学院で学ぶ奨学金を提供しています。新生児出生率と妊婦死亡率は劇的に低下し、肺炎などの感染症患者数も低下しました。

日本は、アフガニスタンが最も苦しんでいるときに様々な分野に様々な方法で援助してくれました。日本はアフガニスタンの未来に投資し、平和にさらに大きな投資をしたのです。ことわざ「困ったときの友は真の友」とあります。3月11日の大地震の直後ですえ、日本はアフガニスタンへの支援継続を伝達しました。翌年、2012年7月には日本政府は平和なアフガニスタンのより良い未来のために方法を分かち合い、意見交換し、調整し展望する国際会議「アフガニスタンに関する東京会議」をここプリンスホテルで開催しました。80年以上の友好的な両国関係で日本はアフガニスタンのいつも良き友であり、アフガニスタンが困っている時に日本は真の友でありました。アフガニスタンも、日本が大震災に見舞われた際に寄り添いました。当時のカルザイ大統領は在アフガニスタン日本大使館に弔問に伺い、記帳しました。これは大震災後、世界中でどの国の首脳よりも早い日本大使館への弔問と言われています。アフガン国民も、いつもアフガニスタンを助けてくれる友邦日本の復興に使っていただけるよう、募金を募り日本赤十字社に託しました。これまでの努力、支援、成果から、アフガニスタンは高貴な日本国に感謝の念は尽きません。

ご列席の皆様、

最後になりましたが、継続的協力関係、友好関係はアフガニスタンと日本両国にとり、また地域だけでなく世界にとっても価値ある展望です。特にアフガニスタンは内陸国でありますので、国内だけでなく地域の平和と安定が世界にとっても重要です。これは今だけに限ったことではなく、「このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つこどもたちに伝えることは私たちの務めです。」（港区平和都市宣言、1985年）ということをお忘れはいけません。

重ねて、この度の30周年行事に祝意を表すとともに、基調講演の機会をいただきましたことに感謝申し上げます。アフガニスタンと日本の友好万歳！ご清聴ありがとうございました。

（了）